

## 平成30年度 戸田市子どもの実態把握調査について

### 1 調査の目的

戸田市の子育て世帯の経済状況、生活状況、子どもへの影響、支援ニーズ等について現状を正確に把握し、その家庭等が抱えている問題について顕在化させるため、また、これらの調査結果・分析を基に、子どもの貧困対策に係る基礎資料とし、現在実施している事業も含め、今後進めていくべき施策の明確化を行うために実施

### 2 調査の設計

- 調査票は埼玉県の前案を基に作成し、戸田市独自設問として「お住まいの地域」「利用している、又は利用していた事業・制度」の設問を追加

- 調査対象者：

<0歳児保護者>平成29年4月2日から平成30年4月1日生まれの乳児がいる全世帯

<小学5年生児童・保護者>市内の公立小学校に通う小学5年生全員とその保護者

<中学2年生生徒・保護者>市内の公立中学校に通う中学2年生全員とその保護者

- 調査期間：平成30年10月1日～10月31日

- 調査方法：<0歳児保護者>郵送配布・郵送回収

<小5児童・中2生徒及び各保護者>学校経由による配付・回収

※プライバシー保護の為、子どもの調査票を小さい封筒に封入・封緘し、その封筒を保護者が保護者調査票と一緒に大きい封筒に封入する方式を採用

### 3 調査票の配付と回収状況

調査種別	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
①0歳児保護者	1,413件	819件	817件	57.8%
②小学5年生児童	1,331件	1,237件	1,231件	92.5%
③小学5年生保護者	1,331件	1,241件	1,236件	92.9%
④中学2年生生徒	1,112件	607件	602件	54.1%
⑤中学2年生保護者	1,112件	609件	605件	54.4%

### 4 調査結果

- 本調査では、生活につき困難を抱える世帯を、収入のみではなく、経済的困難の経験も含めて把握すべきであると考え、収入と支払困難経験の2つの要素に基づき、「生活困難層」を区分した。

※支払困難経験：「過去1年間の間に、お金が足りず、家族が必要とする食料または衣類が買えないことがあったか」  
「過去1年間に、経済的な理由のために、公共料金・家賃等を支払えないことがあったか」

#### 生活困難層区分結果

調査種別	生活困難層	中間層	非該当層	判定不能
①0歳児保護者	5.0%	23.4%	66.1%	5.5%
②小学5年生児童	5.8%	20.1%	62.0%	12.1%
③小学5年生保護者	6.1%	21.0%	64.2%	8.7%
④中学2年生生徒	7.6%	19.4%	59.0%	14.0%
⑤中学2年生保護者	7.6%	19.7%	61.2%	11.6%

- 生活困難の傾向として、「情報不足・孤立」「支援制度の状況に濃淡がある」「不安定な雇用」「栄養不足」「医療の受診抑制・口腔ケア不足」「経済的困窮」「困難の連鎖」「学習環境が不十分」等がみられた。